

未来の環境と農業を考える旅



問 農業政策課
☎内線1811、1812

千葉県東金市にある城西国際大学環境社会学部の学生17人が、8月22日～26日まで、「環境社会国内研修」で、牛久市を訪れました。

環境と農業を考える4泊5日。平沢牧場のたい肥作りやNPO法人アサザ基金が再生した水源地ほか、個人の農家さん宅も訪問しました。また、うしくグリーンファームでは、BDFとベレット製造施設を見学したり、耕作放棄地を再生した農地を視察し、今年ジューズに



なる予定のブドウ収穫も体験しました。

年齢や性別もさまざまな学生たちですが、全プログラムに真剣に取り組む、「地元の環境問題に貢献したい」、「将来は農業を支える仕事に就きたい」など熱く夢を語っていました。

「教室内の講義だけでは分からない。実際に目で見て、耳で聞く体験は非常にいい勉強になりました」と、引率した鈴木弘孝教授はにこやかに話していました。



市内の男女共同参画に取り組む企業を紹介します

うしくひと・ひと 男・女図鑑

No.1



常陽銀行牛久支店
橋本麻起子さん

【企業データ】
(株)常陽銀行牛久支店
従業員数/43人
※(株)常陽銀行牛久支店は牛久市男女共同参画ネットワークに参加いただいています。

約1年間の育児休業から復職した橋本麻起子さんは、育児中も職場とのコミュニケーションをとり続け、また同行の復職支援研修を受講するなど、育児の傍ら自己研鑽に励みました。職場も橋本さんを応援する雰囲気迎え、不安なく復職できたといいます。橋本さんは「育児と両立しながら働く先輩行員から助言をいただきました。育児休業を経て、お客様との会話に広がりが出るようになったと感じます。今後は同僚や後輩からの相談には積極的ののっていきたいです」と力強く語りました。

「時短勤務をする行員は、限られた時間内で高いパフォーマンスを出す努力をしています。男性も含め支店全体として早く帰宅することを奨励し、メリハリのある職場を目指しています」と小松澤副支店長。柳田支店長は「復職後も担当者がお客様との繋がりを維持できるのは良いこと。時間制約のある行員が後ろめたさを感じることなく、仕事で大いに能力を発揮できるよう、組織として支援していくのは当然のこと」といいます。定時退行日の水曜日に限らず、夜7時には退行するセブンアップ運動も実施中です。